

# 日本書道史

## 第2講「日本金石文と中国書法」

住川 英明 (岐阜女子大学)

# 第2講 「日本金石文と中国書法」

## 【学習到達目標】

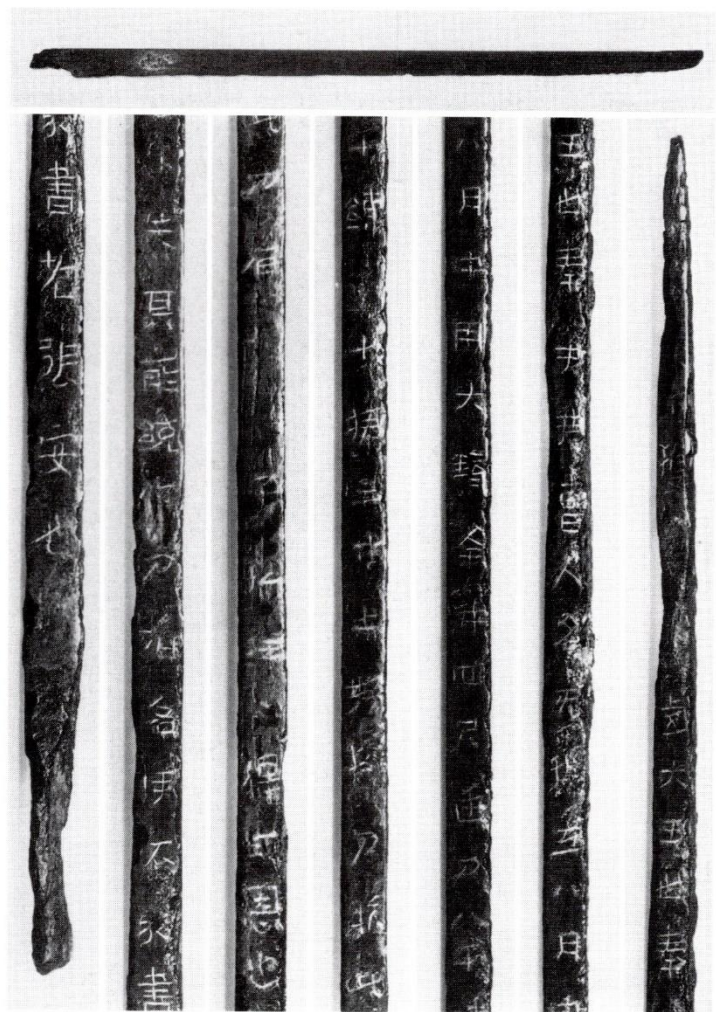
- 古墳時代以前の文字資料について、概括的に説明することができる。
  - 飛鳥時代の文字資料について、中国書法との関わりに言及しながら、概括的に説明することができる。
-

# 第2講 「日本金石文と中国書法」

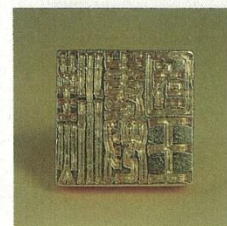
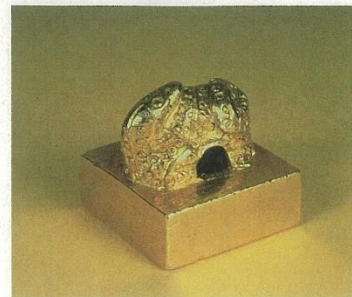
## 1. 漢字の伝来と万葉仮名の発生

- 中国を中心とする東アジアの国々との間で、人や物が行き来するなかで、漢字がわが国に伝来し、書道文化が開花した。
- 金石文字（金石文）の銘文中には、固有名詞などを、仮名文字（万葉仮名）に通じる表音的な表記法によって記したものがみられる。

# 第2講 「日本金石文と中国書法」



《江田船山古墳出土太刀銘》



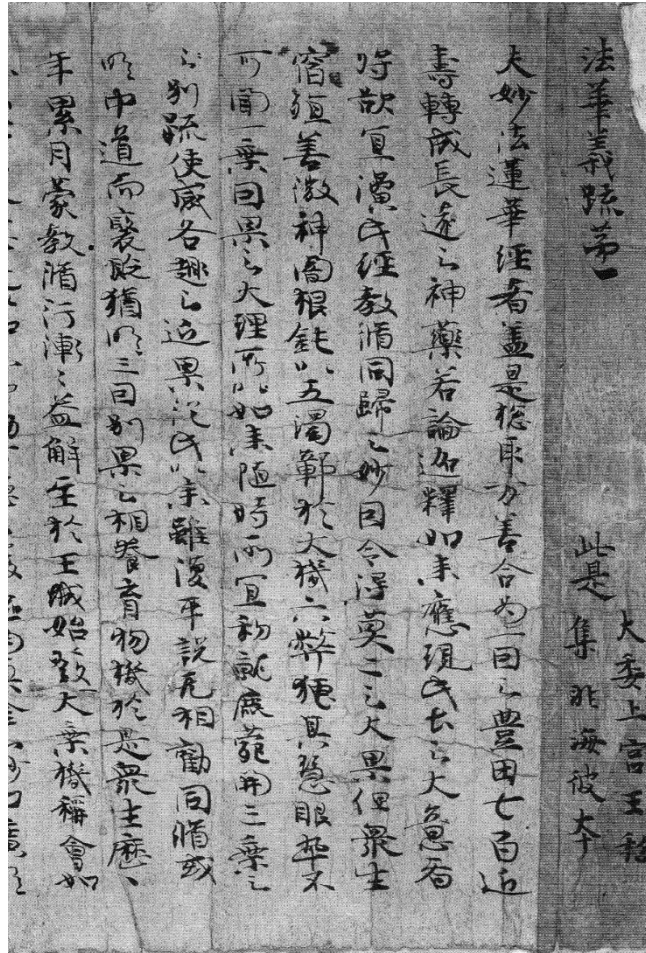
《金印（漢倭奴国王印）》

# 第2講 「日本金石文と中国書法」

## 2. 仏教の伝来による書の発展

- 仏教に関わるモニュメントが多数制作され、そこには文字が鑄込まれ、刻まれた。また、筆墨で紙に書かれた肉筆資料も見られるようになった。
- この頃の筆跡に見られる書体や書風は、中国南北朝時代から隋・唐代にかけての楷書体を中心とし、力感に溢れた雄勁なものから、繊細で優雅なものまで、多種多様である。

# 第2講 「日本金石文と中国書法」



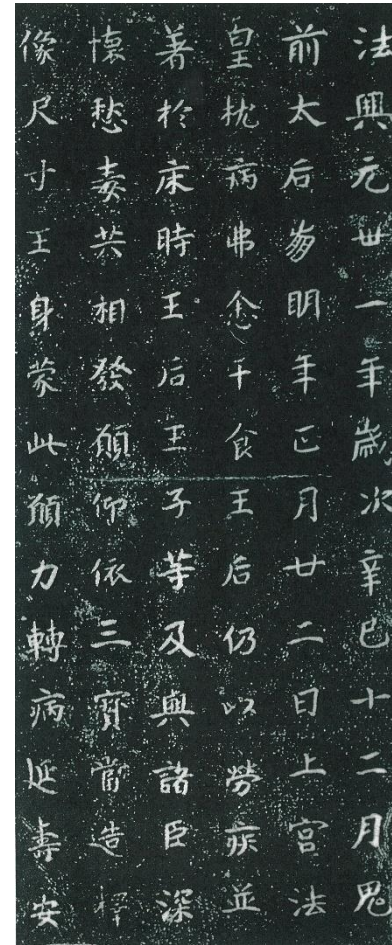
## 《法華義疏》（部分）

- 内容は、『法華經』の注釈書
- 聖徳太子（574–622）の著作とされる。
- 随所にある加筆や貼紙等から、草稿本とみられる。
- 中国南北朝時代の書風を示すことから、推古朝の筆跡であり、**我が国最古の紙本墨書**とされる。

# 第2講 「日本金石文と中国書法」



《宇治橋断碑》  
(部分)



《法隆寺金堂釈迦三尊像光背銘》  
(部分)

# 課題

1. 古墳時代から上代にかけての金石文に見られる漢字の書体と書風について、まとめなさい。
2. 万葉仮名の発生について、当時の文字資料を例として、順序立てて考察しなさい。



# 第2講 「日本金石文と中国書法」

## 【学習到達目標】

- 古墳時代以前の文字資料について、概括的に説明することができる。
- 飛鳥時代の文字資料について、中国書法との関わりに言及しながら、概括的に説明することができる。

# 日本書道史

## 第2講 「日本金石文と中国書法」

住川 英明 (岐阜女子大学)